

令和元年度 中学生 市長と語る会 議事録

- 【目 的】 ・勝山市内の中学生と市長とが、世代や立場を越えて語り合う場を設ける。
・次代を担う中学生と市長とが語り合うことを通して、ふるさとに誇りを持ち、未来に目を向けて学び続ける人材の育成を図る。
- 【日 時】 令和元年11月21日（木）15：40～17：10
- 【場 所】 教育会館3階 第2研修室
- 【参加者】 勝山市内三中学校より 生徒会執行部役員 9名(各校3名ずつ)、引率教諭
- 【テーマ】 私たちの思い～母校へ・ふるさと勝山へ～

【はじめのあいさつ：市長】

みなさん、こんにちは。中学生というと、15歳、もしくは14歳。これから先、あと10年、20年という年を経て大人になっていく。これから先の10年20年はすごく長いように感じる。しかし、私は今74歳。過去を振り返ってみると、あっという間に過ぎてしまった。みなさん方もまだまだ先のことだなあと考えている年齢にすぐに達して、その後の人生もあっという間に過ぎてしまう。その時その時しっかりものを考えると、自分の夢は何かということも自分の胸の中にしっかりと刻み込んでおき、目的意識を常に持って、どのように今を過ごしていくかを考えていくとよい。難しいことではなくて、これから先生きていくからには、楽しい人生、充実した人生を送って行ってほしいし、その可能性が、みなさんにはたくさん残っている。私たちの年になると、可能性はどんどん狭まっていく。が、可能性が狭まっていくなかで、自分がやりたいことをやれば、さらに広げることは十分可能である。そのようなことを今から考えてほしい。テーマにあるように、勝山をどうしたらいいとか、そのためにどのような考えを持っているのか、そのような話が聞けるといい、今日は楽しみにしてきた。よろしくお願いします。

【 提案：勝山南部中学校 】

<長谷川 雄琉さん>

僕たちは、勝山市の発展のために中学生ができることを提案する。

僕は、勝山市の発展のために、「中学生ガイド」という活動を提案する。長期休みなどを活用して、中学生が勝山市の観光名所のガイドやイベントなどの道案内をするというものである。なぜこの活動を提案するのかというと、恐竜博物館やゆめおーれなど、観光客が増えてきているからである。勝山市がより活気ある市へ発展させるため、中学生が役に立てるのではないかと考えた。

僕たち勝山南部中学校では、1年生の総合の学習の時間で、勝山市について学ぶ。僕は昨年、恐竜博物館やゆめおーれなどに行き、勝山市の観光や歴史について学んだ。恐竜博物館では、観光客のみなさんに喜んでもらうための展示や建物の構造など、様々な工夫を探った。ゆめおーれでは機織り体験や施設員さんの話を通して、勝山市の産業の奥深さや集客の秘密について知ることができた。また、今年の1年生も、勝山市の魅力発見のために小原や平泉寺などのジオサイト見学も行った。

これらの経験を活かして、具体的な活動内容として、勝山の観光名所である恐竜博物館やまほろばなどのイベントで道案内などをするなど、僕たちが活躍できる場所や機会がたくさんあると思う。長期休みに希望を取り、行き先を集める。そこではガイドだけでなく、感謝の気持ちを込めて、清掃なども一

緒にも取り組めるとよいと思うし、三中合同で、また、高校との連携もいいと思う。

ぼくたちは勝山市のよいところをたくさん知っている。だから、それを市外や県外の人たちに発信していきたい。そして、勝山市に観光に来てくださった方に、また来たいと思われるようにしたい。

<出口 楓華さん>

私は、勝山市の発展のために、市役所に「C課」をつくるとよいのではないかと考えた。「C課」のCは「中学生」のCである。鯖江には「JK課」というものがあり、商品開発やブログの更新などを通して、鯖江市のよさを発信している。だから、私たちも、中学生ならではの発想やアイデアを生かして勝山市を盛り上げたい。「C課」では、商品開発やイベントの企画・運営をすることで、勝山的话题を作り、全国へ発信していきたい。商品開発は、主に食べ物について考えた。若猪野のメロンや勝山市の果物・野菜を使ったメロンスムージーはどうだろうか。また、勝山のおやきはおいしい。笠松先生はおやきが大好きなので、一日一個は必ず食べるそうだ。このおやきも、中のあんを栗あんにしたり、柑橘系の風味に変えたりして、様々な種類のものを作っていく。また、平泉寺と東尋坊のつながりで、三国とも協力し、酒まんじゅうとよもぎというのもどうだろうか。そうした商品を、サンプラザやコンビニ、2020年にできる道の駅と提携して売り出すこともよいのではないかなと思う。

イベントの企画・運営では、中学生が勝山市を盛り上げられるように、いろいろな企画に挑戦してみたい。例えば、勝山市のクリーンアップ九頭竜。私も実際に参加したことがある。勝山市中で勝山をきれいにする取り組みを、中学生も企画してみたい。また、勝山市の左義長祭りのときも、スタンプラリーなど様々な企画が行われているが、知らない人もたくさんいると思う。「C課」が市役所の方と協力し、アイデアを出し合ってすばらしい活動を企画・運営できるといいと思う。

これら「C課」の取り組みは、中学生の声を勝山市の方へ、逆に、勝山市の方から中学生へと、双方向のつながりをさらに強くすると思う。

<松浦 実来さん>

勝山をよりよくしていくために、中学生ができるPRとして、SNSが一番身近にあると感じたため、SNSなどを活用した提案を考えた。

SNSでの発信は、勝山市でもフェイスブックなどを活用して行っていて、イベント開催のお知らせなど様々なものを発信していることを、私たちも知っている。では、私たち中学生が発信していくとよい内容とはどのようなものがあるだろうか。観光地案内や特産品、食べ物についての動画をアップロードするなど様々にある。しかし、私たちは、勝山市外の方にも勝山市内の学生にも勝山市のすばらしさを知ってほしいと思う。そこで、勝山の企業紹介を「プロジェクトC」という名前で行っていきたい。Cとは中学生の頭文字である。中学生が各企業にインタビューをする。それらを、SNSなどを活用して、動画や文章などの形でインターネット上で取り上げていく。中学生が地元の企業に興味を持てる、市外の人たちにも勝山のよさを伝えられるようにしたい。

私たちは、2年生のときに十四歳の挑戦で職場体験学習を行っている。そこで、働くことの大変さややりがいを感じてきた。また、3年生の修学旅行では、企業訪問を通して勝山市の発展に必要なことを考えた。私たち勝山市民に一番欠かせないことは、地元民が地元を盛り上げることである。勝山市で就職したい、勝山市を盛り上げたいと思う学生も増えてくるのではないかなと思う。C課で企画したイベントのこ

とや中学生ガイドの日程、特産物を使った商品など、たくさんの人に知ってほしいことも発信していきたい。

<まとめ>

私たちは3つの提案をした。だが、私たちにはできることは、まだまだたくさんある。山岸市長は、中学生に何かしてほしいことはありますか。私たちは勝山市が大好きである。何か少しでも貢献できることがあったら、教えてほしい。

<市長より>

素晴らしい提案、ありがとう。意欲がすごい。中学生は小学生と高校生の間で、大人への入り口でもある。今までは自分のこととかまわりのことしか考えていなかったのだが、もっと広い視野で大きなことを考えられる、そんな時期に入ってきたときに、勝山市をどうしようかということをしっかり考えてもらえるということはたいへんうれしいことである。君たちのためになることだし、さらには、そういう気持ちは絶対勝山市のためにもなる。なぜかという、あと10年たてばみなさんは勝山市民として立派な青年になる。そのとき、勝山以外の場所で生活していたとしても勝山で生まれ育ったという履歴と思いは消えない。ふるさとに対して何かをしたいという気持ちをいつもどこにいても持っていれば、何らかのきっかけで、もしくは何らかのチャンスに、みなさんの気持ちは生かされるのではないかと思う。

中学生ガイドとして道案内、観光案内をしたいという提案について。今現在、観光ボランティアという組織があって、大人の人たちが行っている。報酬はほぼ無きに等しい。ボランティアのみなさんが自分の生きがいとして、勝山市のことを一生懸命勉強して、勝山市のことを何も知らない誰か、素晴らしいところだと思って来られる観光客に対して、自分たちが習得した知識をお話しするということに喜びを感じて活動しておられる。君たちの提案もそういうことが基本になっていると思う。自分たちの町をアピールしたり自慢したりすることを担って勝山市がいいところだと思える、さらにもっと良くするにはどうしたらいいかという発想につながってくるのではないかと思う。

三中学校合同で行うこと、さらには勝山高校と連携することについて。これも非常にいいことだと思う。勝山高校も今、「勝山人」というテーマを設けて、勝山市のために自分たちは何ができるか、また、勝山市のことをもっと知ってアピールしていこうというような動きが盛んになってきている。勝山高校へ進学すれば、そのような取り組みの中で今やっていることが十分に生かされる。勝山高校とも今の提案について話をしてみたい。

鯖江市のJ K課に対抗して、C課を作ろうという提案について。J K課について、詳しくは知らないけれど、確かによい取り組みである。しかし女性だけである。なぜ、女性だけなのだろうと疑問がある。提案されたC課は男子も女子も一緒にやるんだよね？こういう取組は高校生の活動にもつながっていくことからおもしろいと思う。具体的には、勝山市役所の中の担当課と毎月1回ぐらい会合をしているいろんなことを話し合っ、その中から具体的なことが出てきて提案されてくるのではないかと思う。

市外へ発信することについて。SNSは一般的になってきた。これからの時代の中核になっていくから市としても取り組んでいく。その中で地元民が地元をもり上げていく取組として14歳の挑戦が始まり、きっかけはちゃんとあるから、何らかの形で具体化できたらと思う。考えさせてほしい。

商品開発について。勝山特産のお菓子やおやきをさらなる工夫によって商品化しようとかスムージー

を作ろうとか、いいアイデアである。若い人たちはお菓子作りにすごい興味があるということを、何かで読んだことがある。勝山の食材を使って、勝山に合ったお土産や特産物を作ってもらえるとありがたい。そのようなアイデアが、専門家の目に留まって勝山のお菓子屋さんで作ってもらえるようになったら、たいへん素晴らしいことだ。具体化できるように考える。これは、奥越明成の高校生からも提案があった。若い人たちはみんなこのようなアイデアを持っていることが今日わかった。

【 提案：勝山中部中学校 】

<沼田 伍生さん>

勝山市には、ほかの町に誇れる大自然がある。小さい頃には山や公園で遊んだり、中学校の宿泊学習では登山を楽しんだり、私は勝山の自然が大好きである。そんな自然あふれる勝山だが、最近、自然災害の一つとして、クマの獣害がある。夕方だと視界も悪くクマに気付くのが難しい。また、特に、過去にクマが出没したところや被害が出たところの街灯の数を増やしてほしい。クマによる人的被害をおさえるために勝山市の街灯の数を増やしてほしいと考えている。

クマなどに加えて、冬が近づくと日照時間が短くなり、僕たちが下校するころには、もう真っ暗になっている。そこに雪が降るとさらに視界が悪くなり、道路状況も悪くなるこの2つの理由からも、勝山市の街灯を増やしてほしいと考えている。クマやイノシシ、自然災害、不審者が出ても、お年寄りから小さな子どもまで、市民の皆さん全員が安心して暮らせるような地域にしてほしい。

<谷 優希さん>

僕の家は「谷よし」という割烹料理屋である。料理をつくる父の姿を見て、将来は店を継ぎたいと思っている。美味しい料理をたくさんの方に食べていただきたいので、県外や外国からの観光客が安心して勝山に来てくださることができるような取り組みを考えた。

最近お店に来る県外や外国からの観光客が増えてきたと感じている。特に、恐竜博物館などの効果だと考えている。そういった方々のために、外国人向けのパンフレットを勝山の多くの店に置くことで、外国の方々に、より勝山のことを分かっていただけだと思う。子ども目線のパンフレットを子ども自身が作るという活動も、よりよいものが作れてよいと思う。

他にも、気候に左右されない屋内施設を作してほしい。勝山の魅力は自然というイメージが強いが、気候に左右されない屋内施設ができると、雨でも雪でも関係なく遊ぶことができる。そうすることで、子ども連れの観光客がまたひとつ楽しめる場所ができ、思い出ができると思う。このような活動を通して、勝山に来てくださった人に笑顔で帰っていただきたいと思う。

<下牧 洸華さん>

私の通う中部中学校は、学年を問わず和気あいあいとした雰囲気があり、学校行事も非常に盛り上がる。そんな中部中学校が私は大好きである。今は、生徒会の一員として、全校のみなさんにも中部中学校が大好きだと思ってもらえるように、ハロウィン集会や目安箱の設置などに取り組んでいる。

最近、勝山市では市内の三中学校合併という案が出されており、私もその話を伺った。私は、三中学校を合併することで、中部中学校の、この和気あいあいとした雰囲気が失われてしまうのではないかと不安に思っている。そして、私の大好きな中部中学校がなくなってしまうのは大変さみしい。しかし、合併

にもよい面はある。部活動の面では、他の中学校の生徒とともに練習を行うことでライバル意識が芽生え、お互いに高め合うことができる。少子高齢化が進む今、市内三中学校は合併されるかもしれないが、その際には、各学校のよいところを確認し合い、各学校のよいところが調和するような学校をつくってほしい。

<市長より>

街灯の数を増やしてほしいことについて。具体的に暗くて危ないとか、ここは明るくしてほしいという場所はあるか。（沼田さん：野向出身の同級生に聞いたところ、場所は具体的にわからないが、過去にクマが出た場所だが、まだ街灯がついてない。暗くて怖いと言っていた。）市役所の係が行って、具体的にその場所を教えてもらうようにする。非常に暗いのであれば、付けなければならない。クマだけではなくて、いろんな危険を回避するために必要ではないかと思う。具体的な場所を教えてほしい。一か所だけではなくて、何か所があるよね。わかるようにしておいて。

クマがこれだけ出たというのは、過去にあまりない。芳野町や旭町に出ている。ほかの町よりもなぜ出没回数が多いのかを私なりに考えてみたところ、勝山市は、山と市民が住んでいる家がかくっついているところが多い。どこの町でもあるのだが、中心市街地が完全に引っ付いている場所が勝山は多い。片瀬町、旭町もそう。昔は片瀬という集落は山に近いところで、そこから市街地まで田んぼがあって、いわゆる緩衝地帯があったから、街までは歩いては出てこなかった。今は、山際の集落と勝山市が完全に結びついているところが結構多い。クマはえさがなくなって自分たちのテリトリーをちょっと広げると市街地に入ってしまうという状態になっている。クマにとってこわい状態を作ったり明るい場所になっていたりすると、クマも警戒するだろう。クマによる被害ということも含めて、暗い場所には街灯をつけたいと思う。

立派な志をもっていて感心する。ぜひ頑張ってもらいたい。勝山市を代表する料理屋さんだから継いでもらえるというのは勝山市の将来も明るく誇らしいものになる。外国人観光客も多くなるはずである。福井県は外国人観光客がが一番少ない県らしい。これから新幹線が福井、敦賀まで開業するようになると、今金沢まで来ている観光客が福井まで、さらに、えち鉄に乗って勝山までやってくる可能性は十分にある。逆にこれまであんまり外国人観光客がいなかったから、外国人の観光客ずれしていない街のよさというのがアピールできるかもしれない。そういうときに備えて、パンフレットは絶対に必要だと思っている。勝山市はジオパークということで、外国人観光客はじめ日本中の観光客を集めようとしている。ジオパークのパンフレットは外国人用じゃなくて、英語表記や中国語表記をしなくてはいけないので、そのような対応の一環の中で、観光施設にも配布できるようなパンフレットを作りたい。

三中学校が一緒になることについて。感情としてはさみしいことになると思う。考え方を強制するわけではないけれど、私たちの年代も中学校はなくなってしまった。僕や教育長の時代は、中学校は勝山中学校で、成器西小学校が中学校だった。それが、中部、北部、南部ができて、勝山の真ん中にあった勝山中学校はなくなってしまった。私にとって母校という中学校はない。過去の歴史をたどってみると、そういうプロセスはたどってきている。平泉寺も、小学校はまだあるけれど中学校もあって、私が子どもの頃は平泉寺中学校がなくなってすぐだったから、平泉寺の子たちは勝山中学校へ来ていた。そのことで、平泉寺の人たちとその当時から今まで長い付き合いができたというメリットがある。一つの時代の流れの中で、いい方法で考えていただきたい。先ほど提案があったように、各校のいいところをそのまま持ち寄って、和気あいあいとした新しい中学校になるとよいと思う。

大きな屋内施設について。幼稚園、保育園の保護者の方との話し合う会に行くと必ず出る話題である。雨が降ったり雪が降ったりすると外で遊べないから作ってほしいということだ。私にも夢があって、ひとつは、中央公園を再生するときに中央公園の中に作りたいと思っている。決めたわけではないけれど、希望として持っている。もうひとつは、勝山市の公共施設がどんどん空いてくる、もしくは老朽化したりして、存続について検討会をしなければならない施設が出てくる。2つのことから、今の提案に対して何とか生かせないかなと思う。今すぐには実現はできないけれど、常に考えながら、施設整備、施設の統廃合を考えていきたい。

【 提案：勝山北部中学校 】

<玉木 誠人さん>

ぼく達は、北中まちづくりプロジェクトという「勝山を美しく、元気に、有名に」をスローガンとした活動を北部中学校区を中心に行っている。ぼくは、その中でも、「元気に」について提案をしたいと思う。

僕が提案するのは、「勝山の中学校や小学校がその地域の誇れるものや誇れること、特産品を身近なイベントを使ってPRすること」である。勝山は、ほかの市や町に負けない美しい自然も多いし、誇れる特産品もたくさんあるすばらしいところだと思う。けれど、発信する力が弱いと思う。僕が小学生のときは、荒土の特産品である妙金ナスを、たくさんの人が集まり身近なイベントで発信できるチャンスである運動会を利用してPRした。具体的には、玉入れの球をナスに見立てて行った。これは、テレビや新聞にも取り上げられ、たくさんの人に一度にPRできた。また、中学校では、小学生と一緒に外来種の駆除活動を行ったり、希少な水草であるバイカモがある川の清掃活動を行ったり、九頭竜川の清掃活動「クリーンアップ九頭竜」を行ったりしている。クリーンアップ九頭竜には親子で参加するので、「川をきれいにするために、これからごみのポイ捨てはやめよう」という意識が強くなるし、楽しくおしゃべりしながらきれいにでき、心がけてくれると思う。

このような活動を北部地区だけでなく、南部地区や中部地区でも盛んに行っていくと、勝山はもり上がると思う。また、勝山の中学校が合わさって活動するのもいいと思う。また、このように地元の小学生や中学生が自分の地域に興味を持ち、特産品や特産物、誇れることや誇れるものを身近なイベントを使ってPRすることでテレビや新聞に取り上げられ、より有名になるし、地域の小学生や中学生にも「僕たちから勝山をもり上げていこう」という強い思いが生まれ、勝山がよりよくなると思う。

<仲谷 有生さん>

私は、北中まちづくりプロジェクトのコンセプト、勝山を「美しく」「元気に」「有名に」の中の「有名に」について提案をしたいと思う。

勝山には、ゆめおーれや七里壁などの歴史ある場所やスキージャンプや恐竜博物館などの楽しめる場所があるけれど、あまり広く知られていないものもあり、もっと多くの人に知ってもらいたいのでもっと、PRするとよいと思う。そう考えた理由は、2年生の校外学習で、今年、勝山駅周辺を歩いて回りながら、勝山の土地や歴史について勉強したとき、長い間勝山に住んでいる私でも、知らなかったことや興味深いことがあり驚いたからである。そこで、勝山駅周辺を歩いて回れる観光コースを作るとよいと思った。

例えば、勝山駅から恐竜博物館まで、恐竜の足跡が道路についているのがおもしろいと思うので、道路に観光コースの印をつけて、誰でもわかりやすいようにするというのどうだろうか。そうすれば、実際に

行ってみたくなるなと思うし、日本語が読めない外国人にも印を見れば観光が楽しめると思う。歩いてでは、勝山の遠い場所へ行くのはたいへんだと思うので、バスツアーを作るのもいいと思う。バスなら道に迷わないと思うし、勝山は交通の便が少し足りないと思うのでよいと思う。でも、これらをする前に、まず、勝山に人を呼ぶ必要があると思う。勝山駅はえちぜん鉄道で福井駅とつながっているのだから、福井駅で勝山をPRすれば、えちぜん鉄道に乗って勝山駅へ人が来てくれると思う。福井駅の恐竜がいるところに、勝山をPRするポスターなどを作って貼るとよいと思う。北中まちづくりプロジェクトの活動も、ポスターやチラシを作ってPRしているので、私たち中学生がポスターを作って福井駅に掲示すれば見てくれた人が勝山に少しでも興味を持ってくれると思う。

<乾 響王さん>

北中まちづくりプロジェクトのコンセプト、勝山を「美しく」「元気に」「有名に」の中の「美しく」について提案をしたいと思う。

勝山の花「サツキ」をもっと活用できたらと思う。そこで各地域でフラワーアート作るのはどうだろうか。荒土町の松田には、シバザクラで作ったフラワーアートがある。案として、元町では左義長のフラワーアートを作ったり、荒土町の特産の妙金ナスをフラワーアートにしたり、恐竜博物館周辺の地域では恐竜をモチーフにしたフラワーアートを作ったりするとおもしろいのではないかなと思う。それをインターネットで発信すると、もっと広がると思う。そこで、インスタグラムやフェイスブック、ツイッターなどのSNSを通して、日本中に、世界中に発信したら、勝山はもっと有名になるのではないかなと思う。

そのためには、周辺の環境美化にも取り組まなければいけない。その活動を、北中まちづくりプロジェクトを中心に組み込んでいきたい。地域の小学生や地域の方々などと連携して美化活動を行うことで、勝山がもっと活性化するのではないかな、そして、市民一人一人にもっと勝山の自然環境への意識を持ってもらえると思う。だから、サツキをもっと利用して、美しいスポットを作るとよいと思う。

<市長より>

北部中学校はまちづくりプロジェクトで、勝山市を美しく元気に有名にという取組をずいぶん長いことやっている。10年ぐらいたつのではないだろうか。すばらしいことだと思う。自分たちが思うことを思い切って言って、言うだけではなくて実践していることがすばらしい。東京での修学旅行でもアピールしてくると聞いている。静かなところで育った子どもたちが大都会の中で堂々とアピールしてくるなんて素晴らしいことだ。そのような考え方の一環として、今の提案を聞いた。

身近なイベントを使って地域の誇れるものを発信することが基本となっている。今までやってきた中で完全に定着していると思うのは、勝山をきれいにするという取組で、近くの畝見川の清掃をしたり地域の中に生えているセイタカアワダチソウなどの外来種を駆除したり、梅花藻を保全していたり、すごくいいことだと思う。それらの活動で大人を啓発しているように感じる。出てくるごみはみなさんの捨てたごみというよりも大人の捨てたごみだということを以前に聞いた。そのようなことから、大人ははっと気づくのではないかな。そのような取り組みをこれからも続けてほしい。

今回の提案は、そのようなことをしながら、もっともっとアピールしたいということで、最後のほうに、フラワーアートの話が出てきた。これはサツキでやろうということかな？サツキというのは、花だけでなく、茂みになる木だから、あれを植えるというのは結構大変なのではないかなと思う。具体的な考えはある

のかな。(まだちょっと考えてないです。)

勝山駅周辺に人を呼ぶということで、恐竜博物館に行くと足跡もついているのだが、それをさらに伸ばすということかな。(はい。伸ばしていったり、2つ、観光コースを設定して、その観光コースがわかるように印をつけたりするとよいと思う。) 発表の中で、勝山駅周辺で知らないところがあってわかってとても興味深かったと言っていたが、具体的にどんなことかな。(七里壁とかは校外学習に行くまでは名前も知らなかったもので、すごく興味深いと思った。) 三室遺跡も知っている?(名前くらいなら知っていた。説明は勝山駅で聞いた。もっと知りたいと思った。) 遅羽公民館に三室遺跡に資料館があって、発掘して出てきた縄文遺跡が非常にたくさん解説付きで展示してあるから、見に行くとまた興味がわくと思う。

勝山駅は今、非常に魅力のあるスポットになってきている。新幹線が開通すると二次コークスというのだけれど、福井駅まで来てから勝山まで来るために一番確実なのはえちぜん鉄道である。だから、勝山駅のさらなる利便性、周辺を魅力ある場所にしていくことを、提案があったことも含めて考えていきたい。

勝山市のポスターについて。奥越明成高校からも提案があった。厳しいことを言うようだが、ポスターには要件が必要である。わかりやすく、アピールし、魅力がさっと目に入る、ある程度のテクニックとレベルが必要である。一生懸命勉強して、ポスターの質を高めていってもらわなくてはならない。専門家が見ても、「これはすごい」とわかるような能力、テクニックを磨いてほしい。みなさんの作ったものがどんなものかわからず言っているので失礼かもしれないが、普通の絵と違って目的が「訴求力があって、見たときにそこへ行ってみたいと思わせるようなもの」であるから、さらにいいものができるようにがんばってほしい。

【懇談会】

○市長より

長谷川君はスキーが大好き? アルペン? 毎週日曜日にジャムでポール立てているチームにはいいているのか?(はい。入っています。) 日曜日はだいたい滑りに行くが、朝早く行くと、ポールを立て始めて滑っているからいいなあと思っていて、一度滑らせてもらえないかなあと思っている。何人ぐらいいるのか?(15人ぐらいです。) いつごろからやっているの?(正式には中学生からです。) ぜひアルペンでもがんばって、高校だったらインターハイで、がんばってほしいと思う。

<街灯について>

街灯をつけるためには予算があると思うのだが、予算はどれくらい使えるのか。

○市長より

予算の前に、どういうところにつけるかということ、市街地、家が建っているところが一番優先である。そして、もう一つは通学路も優先される。先ほどの提案の中に出てきた場所は通学路になるだろうから、可能性はあると思う。市の会計、お金の使い方というのは年度の始めに予算を組む。予算を組む土台となるのは、「どういう事業をしたいか」「どういう建物を整備したいか」「そのためにどれくらい予算がかかるか」をまず算定する。その中に、街灯もあるのだけれど、年間にどれくらいの個所でやるかは概算である。予算の縛りはあまりなくて、「今まで未整備で、やらなければならないところをやる。だけど、一度にはできないから順番にやってきて、今年度はここをやろう」という考え方で進めている。そのような中

で、提案のあったところのように、「緊急にやらなくちゃいけないところ」「予定には入っていないけれど、クマが出そうな暗いところがある」というのであれば、予算があるなしに関わらずつけることはできる。

<市長の好き場所について>

市長にとって、勝山の好きな場所はどこか。

○市長より

いろいろあるが、その前に、私は自然が大好きで、スポーツも、今はあまり行かないが、山登りをしたり、今から10年ほど前までは、ランニングで、自分の10kmコースを持っていたり、勝山の恐竜マラソンのようなあちこちのマラソン大会に出ていたり、冬はスキーが大好きで、今はスキーをやるために足腰を鍛えている。スクワットとかストレッチとかもして、もうすぐ降るであろう雪に備えている。(僕もスキージャンプが大好きです。) 県内で一番初めにできたスキー場は六呂師スキー場である。それから、勝原とか、同じところに雁が原ができた。昭和30年代の中頃のことで。最初は、リフトがないようなスキー場だった。たいへんだったのは、スキー場についても降ったままの雪だから、自分たちで踏まないで滑れなかったこと。みんなで並んで一生懸命踏んでコースを作って滑った。高校生のときは、体育の時間にスキーの時間があって、冬はほとんどスキーだった。勝山高校は長山に近いから、そこへ行って滑っていた。それも楽しかった。青年期になって、20代、30代のころは雁が原だけでは物足りないから、どんどん遠くへ行って、車で朝早くか夜の11時ごろに出て、長野県とか新潟県の大きなスキー場へ行った。今はそんなところへ行かなくても、家から15分でスキージャンプまで行ける。非常にありがたいし便利になった。雪が降りすぎて、当然、雪に閉ざされるのは嫌だけれど、どうせ降るのであれば雪を楽しむという発想を持つと決して嫌なことばかりではなくて、雪が降る楽しみというものもあると思う。結婚して子供ができたら、雪を楽しむような家庭を作って、次世代へ、そのまた次世代へ、雪の楽しさとか雪国のよさとか伝えてほしい。

<中学生にできることについて>

何か中学生に、学校全体ででも、勝山に貢献できることはありますか。

○市長より

高校は、学業や学校の勉強のプレッシャーがかかる。中学生にも当然それがあるけれども、まだ高校生ほどではない。大人にさしかかる一番大事な時期で、今からどんな人間になろうとか、今日のテーマのように、勝山の町をどうしようとかに思いを馳せていく、人生の中でも非常に楽しい時期ではないかと思う。勝山に対して、こういうこともしたい、ああいうこともしたいという提案をしてもらえることは大変ありがたいし、そういう気持ちをずっと持ち続けてほしい。自分の今までのプロセスの経験から、高校生になると、どうしても勉強というプレッシャーがあるから、今みなさんが思っているようなことも思っているのだけれど、なかなかそれを表に出せないような状況に追い込まれる。わずか高校3年間ぐらいのことだからいいのだけれど、その時期に完全に忘れ去られてしまうことも無きにしも非ずではないかと思う。今日の話にあった情熱なり希望なり、そのいう気持ちを、高校生になっても、高校を卒業しても、気持ちだけは常に持ち続けてほしい。それが、人間が生きる上で希望になったり、将来はここまでやりたいんだという希望がエネルギーになったりすると思う。今日のいろいろな前向きの勝山市に対する思い入れを、私も大事にするから、みなさんにも大事にしてほしい。

<クマ対策について>

以前は、人間界はクマにとってこわい状況だったと思う。今年これだけ長い期間クマが出続けていたり何件もの目撃情報が続いていたりすると、だんだん人とクマの地位が逆転してくると思う。明るいところは警戒するとは思いますが、昼間から出ていたら、街灯を増やしても昼間の明かりよりも弱いので、私たちが安全に自由に暮らせるためにほかに何か対策をしてほしい。

○市長より

今の状況をそのままにしておいたり見過ごしたりするのではなくて、このような状況が今後も起きる可能性があるから、それを回避するためにはどうしたらいいか、これを契機にいろいろ考えたいと思っている。そのためにはいろいろ方法がある。まずは、先ほども言ったように、山と市街地がくっついているということは、山からトコトコと歩いてきて市街地に入ってくるということだから、これをどこかで食い止めるような人為的な柵、もしくは、これ以上来なくてもエサが得られるという街を作るというのも一つの案である。一番わかりやすいのは、恐竜博物館があるのは恐竜の森、正式には、長尾山総合公園である。溶岩流がずっと流れてきていて、あの台地は溶岩流でできている。スキージャンプのある法恩寺山とずっと山続きで続いているから、クマたちはそこをたどってくれば当然出てくるわけだ。クマにとってみれば、普通に歩いてきて自分たちのエリアのちょっと外へ出ただけで大騒ぎになって騒がれて捕獲される状況である。そこまで出てくる間に、「ここから先は行ったらこわいよ」とか、「もういけないよ」とか「行かなくてもエサがあるよ」というような方法はないか考えている。言うのは簡単だが、なかなか難しい。(ありがとうございます。今まで私は駆除すればいいなと思っていたが、そういう方法があるのなら、駆除せずに、その方法がいいと思う。) 山から町へ出てくるのが常態化して、クマにとって街中が怖くない、また、カキの木に登ればエサがあるということがわかって街が彼らのエサ場のひとつになってしまったらほんとに困る。そのような状況がちょっとありそうな感じがする。だから、市街地の中に出てきたクマは、駆除するようにしている。「なんで殺すんだ。かわいそうじゃないか」と、全国から勝山市は残酷な町だという内容のメールが来ている。それはよくわかっているが、先ほど言った状況だから、逆に、もし、幼児とか学童とか高齢者に襲いかかって危害が加えられたり命を奪われたりしたら、クマの命と人間の命とどちらが大事だという議論になり、勝山市の責任が大いに問われる。今のやり方は、今年のような状況では、必要なことだと思う。

<一番回ってほしい観光地について>

勝山のいろんなところを回るために勝山にたくさんの観光客が来てくれるといいという話をしたが、もし実現するとしたら、山岸市長が一番どういうところを回ってほしいか。

○市長より

勝山というこれだけの町の中に、こんなにたくさんの観光地、それも有名な観光地があるところは、全国にそんなにない。まずは、恐竜博物館、スキージャンプ勝山があり、白山平泉寺があり、越前大仏もある。それぞれの地区には、村岡山とか三室遺跡とかたくさんのものがあり、整備すればまだまだ人を呼べる要素をたくさん持っている。三室遺跡は、発掘すれば福井県一の縄文遺跡になるだろうし、日本でも縄文遺跡の研究はどんどん進んでいるから、新たな発見が出る可能性もある。もっと一生懸命考えてコースを作ると、観光客に魅力的なコースが作れると思う。勝山市全体がジオパークに入っているから、そうい

う括りで観光コースをさらに再整備していくということもできると思う。七里壁と言っても何のことだかわからなかったことはみなさんにとってもそうなのだろうから、外から来た人にとってはびっくりするかもしれない。

【市長からのエール】

みなさん方は、それぞれの学校をひっぱっていくリーダーであるということだが、今日話を聞くと、そのような人たちであるということがしっかりとわかった。考え方も話し方も提案の仕方も非常に優れたものがあった。ぜひともこの経験なり今の立場なりを自分のものにして、この自信を持って、どんどん成長していったほしい。高校へ行って、さらに進学したり就職したり実業の道に入っていくのだろうと思うが、いつも順風満帆だとは限らない。非常に挫折することとか、いやなこともあるし、しょげることもあるし、心がくじけそうになることもあると思う。今日のこの瞬間や君たちがやってきた実績、やりがい、これだけやったんだという自信というものを常に心に持っていれば、何でもできるんだという自信につながっていく。そういう気構えを持って、これからがんばってほしい。私もそのような気持ちで今までがんばってきたから、みなさんもできると思う。

【終わりのあいさつ 教育長】

ありがとうございました。この会は3年目になるが、はっきりと変化してきている。何が変化してきているかというと、最初の中学生のみなさんは、どちらかというと、勝山市に足りないもの、例えば、アミューズメント施設が足りないとかマクドナルドがあるといいとか、そういった市への要望、実現するかどうかはわからないが、そういうものがあるといいなあという意見が多かった。それから、今度は、具体的にそれを進めるにはどうすればいいかという提案に変わってきた。これが1つ目のステップアップである。今年、去年までと大きく変わってきたのは、高校生も含めてであるが、みなさんも盛んに言っていたように、「自分たちも一緒にやるから」ということである。「自分たちにできることは何かないですか」と逆に市長に尋ねてもいる。自分たちも一緒にやりたいというところが、今年の大きな特長ではないかと思っている。それだけみなさんが、勝山市というものに着目して、もっともっといい町になってほしいという熱い思いがあるんだということがほんとにありがたいなと思う。そういった気持ちをこれからも持ち続けてほしいし、この会が始まる前に私から説明したように、こんなにたくさん各課長さん方等来てくださって、提案、アイデア等をどう生かしていくかということのお返事を出すから、それも楽しみに待っていてほしい。本当に実りある市長と中学生との語る会だった。ありがとうございました。先生方もありがとうございます。今後もよろしくお願いします。